

結核 ～肺結核緊急事態宣言～

都丸内科医院 都丸昌明

化学療法の導入と国民生活の向上により1950年代から順調に減少して来た結核も、最近再び増加の兆しが見られ、平成11年7月には厚生大臣の緊急事態宣言が行われた。

最近の結核は80%が自覚症状により受診して見つけられるが、受診の遅れで病状が進行し、その結果周囲に感染の危険性が増大している。

また、人口の高齢化に伴い過去に結核の感染を受けた人たちの再燃、発病する例も多い。

「感染経路」

周囲への感染は排菌患者がせきをして飛沫^{ひまつ}から生じた微粒子から吸入されて発生する。空調設備の普及により換気の悪い状態も集団発生の原因の一つとして考えられる。

「BCG」

乳幼児ではBCG接種が効果を発揮する。結核性髄膜炎や粟粒^{ぞくりゅう}結核の様な重症のものではBCGの接種率が極めて低いという。

欧米ではBCG接種を行わないで、ツベルクリン反応が陽性の者には予防投薬をする国もある（我国でも条件によっては予防投薬をする）が、残念ながら我国の結核感染率や結核罹患率^{りかん}はそこまでに到達していない。

「感染の危険の高い者」

排菌者との接触者（特に家庭内の接触者）。結核菌陽性でも、かくたん以外陽性では感染の危険性は低い。

「発病の危険の高い者」

最近結核菌の感染を受けたと考えられる者。副腎皮質ホルモンや抗がん薬の投与を受けている者。糖尿病や血液透析を受けている者。HIV感染者（エイズ）等である。